

第2号様式(第12条関係)

令和3年度 第3回大和市文化創造拠点等運営審議会(書面開催) 会議要旨

1 開催日 令和4年2月18日(金)～令和4年3月2日(水)

2 場 所 書面開催

3 出席者 委 員 7 名

4 傍聴人数 なし

5 議題 (1) 令和3年度主な事業報告について

6 議題に対する意見等

<委 員>

○多くの制約がある中で実行可能な事業は実行され評価する。特に「やまとみらい業務改善会議」については根気のいる作業ではあるが、今後も地道に続け「やまとみらいフレッド」に反映させていって欲しい。

○昨年度に続いて、今年度も困難な状況の中での活動を余儀なくされたが、反面、このような状況に対峙した場合のノウハウも少なからず得られたものと考える。今後の事業継続計画策定に是非、活用して頂きたい。

○今回、会計面の報告はなかったが、確認しておく必要はあると考える。

<委 員>

○長引くコロナ禍の中、各事業を創意工夫され幾多の制限を乗り越えながら実践されていることに深い感動と敬意を感じた。それぞれの事業内容に関しては特に付加する意

見等はない。

○関係スタッフによる事業の未来創造への架け橋として努力されている

1. 利用者の「ご意見箱」の可視化

2. 「やまとみらいクレド」

は大変興味あるトライアルと感じた。「ご意見箱」の内容は、その意見に対するリアクション実績までオープンにできるようになればと期待している。「やまとみらいクレド」については何らかの機会に進捗状況を知る機会があれば幸いである。

<委 員>

○各館大変良く工夫された事業が展開されているというのが全体を通しての感想である。その上で、次の3点について意見を申し上げる。

○令和3年度事業報告では、大変工夫された企画が行われている。これらの企画について市民に十分周知されているか。各図書館等でどのような事業が計画されているのかを「市民が知る事」が大事だと考える。現在、「広報やまと」で5月、9月、12月、3月の4回各館での催しの予定が掲載されていたり、図書館のホームページ等で紹介されていたりする。しかし、書き留めておくとか、検索するとかしなければ情報をキャッチすることができない。もっと分かり易く誰にでも目にとめてもらう事の出来る情報発信はできないだろうか。

○5周年記念のオープニングセレモニーは、前年度の振り返りをふまえ、より工夫されたものになっていたと思う。サブホール参加者が172名、さらに渋谷学習センターにサテライト会場が設けられ30名の参加があったことは、評価できる。来年度は、渋谷学習センターだけではなく各学習センターでの配信はできないか。大型ショッピングモール等での配信ができれば、より多くの人にシリウスの事を知ってもらう良い機会になると思う。

○渋谷学習センターで行われた「現代的課題」としての「リアル避難場所体験」が開かれているのは興味深い。近い将来必ず発生する可能性が高いと言われている地震に備えるためにも、このような防災への知識や対応力を市民に育成するためにも、防災拠点に関わらず取り組むことは意義があると考ええる。

<委 員>

○大和市文化創造拠点（シリウス）の関係者は、5年を経過し全体としてよく対応し、市民にも十分評価されてきていると思う。シリウス 5 周年事業も評価される。

○大和市文化創造拠点（シリウス）に関し地元中学生が抱いている感想を、学校で行われた文化発表会の作品の中から見たものを、一部を紹介する。これは、生徒たちが大和の有名な場所を取り上げて、自分で英作文を作成したもので、飛びぬけて多く取り上げられていたのがシリウスに関するものだった。

「・多くの人がおもしろい本を読むためにそこを訪れています。

・お気に入りの本を見つけることができます。

・図書館には多くの学生がいます。

・本を借り、勉強することができます。

・6階では食べたりおしゃべりもできます。

・そこは多くの市民に愛されています。

・どうぞシリウスに行ってみてください。」

○図書館の蔵書の保有期間と入れ替えに関して

「関口宏のもう一度！近現代史」を見ている。興味のある資料として、満州に関する資料を探していたら「満州建国十周年記念版・満州帝国分省地図並各地総覧」が保管されており、興味深く見る事ができた。

一方、市内の各図書館の大百科事典について気になる点をまとめる。

・桜丘学習センター図書室

本を読む席が少ないように見受けられた。

「世界大百科事典（全37巻・1981年初版 1983年印刷）」が書棚に重々しく配置され、紙もやや黄ばんで文字も読みにくい。別に子ども向けに新しい書籍が用意されていたのは救いであった。

・渋谷図書館

書棚が低く設置されており、見通しもよく明るく、本を読む席も確保されていた。1975年初版発行の「ブリタニカ国際大百科事典」や世界地図も昭和 59 年発行のもので、子ども向けの百科事典は置いてなかった。

・中央林間図書館

館内貸出用タブレットで9種類のデータベースが利用可能である。「ジャパンナレッジ Lib」「ブリタニカ・オンライン・ジャパン」「ポプラディアネット」などで事典を閲覧でき

る。

・つきみ野学習センター図書室

「世界科学大辞典」が書棚の一番高い所に置かれており、手が届かない。

新しい書籍も購入されており、「日本の地理」「世界の国々」(2020年発行)や「世界の歴史」(2016年)などが置かれていた。

○大和市生涯学習センターにおいて、令和4年2月19日、20日の両日、第34回生涯学習センターまつり(参加サークルの文化展・発表会)を1年ぶりに開催した。コロナ対応に注意を払い、サークルの意欲熱意と、実行委員会の判断と生涯学習センタースタッフの協力があって開催にこぎつけ、日ごろの閉塞感を少しでも晴らすことができた。来年度は、35周年記念事業として計画中である。

<委員>

○様々な工夫や、新しい視点で進められていることが、この先の事業の可能性につながるのではないかと期待している。

○皆さんの働きに感謝すると共に、さらに豊かな働きへと向かい、この地の文化生活が市民の皆さまの喜びにつながりますように祈っている。

<委員>

○コロナ禍の中、様々な事業を展開されたことについて高く評価する。

特に、やまとみらい業務改善会議による試みは素晴らしいと思う。「やまとみらいクレド」は、全7館から選抜されたスタッフ20名によるワークショップによって作成されたとのこと、ぜひ職員への浸透をはかり、サービスの向上につなげていただきたい。

○報告書は、写真が付され、それぞれの事業がわかりやすく説明されている一方で、事業の羅列にとどまってしまっているのが残念。総評、事業母体別の方針とまとめがあると、より説得力のある報告書になるように思う。

<会長>

○「主な事業報告」が殆ど開催イベントに終始しており、たとえば下記について記載がみあたらない。

1. 各図書館の基幹業務である選書、収集の令和3年度実績(中間経過)、ならびに令

和3年度において注力している事業の紹介

2. 各図書館における閲覧者、利用者支援（レファレンス等）の実績（中間経過）、ならびに令和3年度において注力している事業の紹介、とりわけコロナ禍における取り組み

3. 各センターにおける利用実績（中間報告）令和3年度において注力している点の紹介

各項目説明においてそれと思われる部分がないではないが、イベント紹介の羅列だと、令和3年度において注力ないし工夫した点が明瞭になりにくく、こうした時期なので、別に立項しても良かったと思う。

○市民との協働がはかられている点は評価できるが、この種の事業は、事業実施は始まりにすぎず、そこから何が生まれたか、市民生活にどのような変化が生じたかが重要で、過年度の例も含め、報告されることを期待する。